

複数グループによる協力作業の手順における試み -地域振興支援作業において-

丹羽 恵理子*1

Email: niwa@mi.sanno.ac.jp

*1: 産業能率大学情報マネジメント学部

◎Key Words 地域振興 情報共有 作業意欲

1. はじめに

産業能率大学情報マネジメント学部には、地域振興支援を目的とする「伊勢原プロモーションプロジェクト 246」(以下、IPP246)という同好会があり、著者はこの同好会の顧問として、結成から3年間の活動を観察してきた。

IPP246は、キャンパスの位置する神奈川県伊勢原市および伊勢原市および神奈川県西部にある大山地区の地域振興を支援することを目的としている。本稿は、IPP246の活動におけるIT環境利用の問題点およびその解決策の試作の提案および報告を行うものである。

2. IPP246の活動内容

IPP246の活動範囲は、特に制限を設けていない。同好会の活動趣旨に沿う中で、積極的に活動を行っている。現在までの主な活動内容は、以下の通りである。

- 市民および市民グループなどによる各種イベントの広報
(学生による駅などでのチラシ配布など。観光客および市民向けの広報)
- 各種イベントの支援活動(運営準備や当日の作業支援)
- イベントで販売する、地域振興へつなげる商品開発
- 商店における地元アピールを目的とした商品開発
- 地域商品の販売促進活動
- Facebookなどでの、地域イベント情報や活動内容の発信

こうした各活動において、学生は単独で企画・活動することではなく、主催団体および、サポート団体(県央経営者会)との協同作業を行っている。協同作業においては、頻繁な打合せおよび、情報の共有が必要となる。

3. 情報共有における問題点

IPP246が支援対象とするイベントや商品は、ほとんどが既存のものであり、多くは長い歴史やこれまでの各種取り組みが背景にある。また、協同作業を行う団体も複数にわたる。このため、以下のような、作業を行う上での問題点がある。

(1) イベント、商品の背景にある情報の共有への意欲

学生が活動に参加する理由は様々であり、関心も各人で異なる。そのため、各イベントや商品の全体像や背景に関する情報を共有することは容易ではない。また、大学生であるために、メンバー入学、卒業などによる入れ替えは避けられない。

(2) 共有する情報の形式の多様さ

協同作業を行う他団体では、すでに関連情報を多く持っている。紙媒体での記録、画像や動画、諸ソフト(ワードプロセッサソフト、プレゼンテーションソフトや表計算ソフトなど)により作成されたデジタル資料など多岐にわたる。

(3) 情報共有の環境の多様さ

協同作業を行う他団体では、情報共有のための仕組みをそれぞれ使用してきており、それらは、団体により多様である。ネットワーク上の情報共有ソフト、紙媒体による記録ファイルなど、さまざまであり、必ずしも学生のアクセスが容易なものではない。

(4) 学生による発信の有用性

学生は、打合せの内容を議事録に残すようにしてきている。議事録作成に不慣れな学生がほとんどであり、作成のタイミング、共有のタイミング、共有方法が活動メンバー全員にとって適切とはいえず、うまく活用されているとはいえない状況があった。

また、学生は SNS などを活用して随時情報発信を行っているが、こうした活動もまだまだ浸透しているとはいえず、また共有も十分なされているとはいえない。

(5) 学生の IT 環境の現状

学生の多くは、スマートフォンを主な IT 環境としており、このことが、各種情報共有を十分にできていない大きな理由となってきた。

4. Prezi*2 を活動で利用する試み

Prezi は、非線形に情報を結びつけ、視覚的に学生にとっては刺激のある程度あるアプリケーションである。3. で挙げたような問題点を解決あるいは改善するために、アプリケーション Prezi を試験的に取り入れ、一定の成果を収めている。成果を収めた理由に関しては、Prezi の持つ次のような特性があると考えている。

(1) ブレーンストーミングへの適応

学生の発案の多くは単発的なものであるが、優れたオリジナリティあるものも少なくない。こうしたアイデアを記録するために適している。

(2) 情報再構築への適応

複数団体による、複数形式で残されてきた、その関連が一様ではない情報を、共有を目的とした再構築に適している。

(3) 学生の IT 環境への適応

スマートフォンを基準とした学生の IT 環境での使用が無料で可能であり、また活用も容易である。学外のメンバーへの利用喚起も比較的容易である。

学生の使用意欲も維持しやすく、そのため使用頻度も低くないとの結果が出ている。

発表では、具体的な試用の影響を説明し、その有用性について述べる予定である。

謝辞 本発表のもととなる IPP246 の活動は、伊勢原市内の各商工関係の団体、各種イベント主催団体、および産業能率大学、およびそれぞれの関係者の支援を受けている。関係者には改めてここで謝意を表したい。

*2 Prezi は Prezi Inc.により提供されているプレゼンテーションソフト。

参考文献

- (1) 筏井哲治、高橋佳祐名：“Prezi で始めるズームングプレゼンテーション 第2版”，日経BP社（2014）
- (2) 大藪多可氏ほか：“観光と地域振興”，海文堂出版、(2013)
- (3) 千香、猪谷千香：“つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み”，ちくま新書、(2014)